

# 果樹園で最近問題となっている雑草 マルバツユクサ

「ラウンドアップハイロード」なら地下部まで枯らす



写真-1 地面をびっしり覆っているマルバツユクサ

マルバツユクサ(学名: *Commelina benghalensis* L.)は、アジア、オーストラリア、太平洋諸島、アフリカなどの温帯~熱帯地域に広く分布しており、とうもろこしや落花生など畑地の強害雑草として知られている。日本では、西日本を中心に分布しているが、全国的に発生している普通のツユクサとは対照的にほとんど知られておらず、これまで防除上問題となったことはなかった。

ところが、数年前から九州を中心とした果樹地帯で「マルバツユクサが残って困る」という報告が多くなってきた。長崎県や佐賀県のかんきつ地帯では、マルバツユクサが地面をびっしり

覆っている園(写真-1)もめずらしくないくらい問題雑草化している。古くから日本に自生していたマルバツユクサが、なぜ急に問題となったのかはよくわかっていないが、おそらく普通のツユクサとして防除してきたことが原因のひとつと思われる。

## 葉が丸く、地面の中にも花を着ける

マルバツユクサは、ツユクサ科の一年生雑草で、その名のとおり、普通のツユクサより葉が丸いのが外観上の特徴である。マルバツユクサは、普通のツユクサと比較して、非常にだらだらと発生するうえに生育も旺盛なことから、従来どおりに草刈りや除草剤散布をおこなっても、短期間で再び地面を覆い尽くしてしまう。

さらに、マルバツユクサは、地面の中にも花(閉鎖花)を着け、種子をつくることができるという特殊な性質を持っている(写真-2)ため、草刈りや除草剤で地上部だけ枯らしても、翌年には地中にできた種子から発生してくる。



写真-2 マルバツユクサは、地面の中にも花を着け、種子をつくることのできる

## 地下部にもダメージをあたえる

これらの特徴から、マルバツユクサを防除するには、地上部はもちろん、地下部にもダメージをあたえることで、再生を抑え、地中花をつくらせないことが重要であると考えられる。

当研究室では、地下部まで枯らすことのできる「ラウンドアップハイロード」(グリホサートアンモニウム塩41%)を用いてマルバツユクサの地上部に対する除草効果、および地中花の形成を抑える効果について営農・技術センター内の圃場で調査を実施した。その結果、「ラウンドアップハイロード」は地上部を枯らすだけでなく、地中花の形成もかなり抑えることが確認された(表)。

今後は、マルバツユクサの生態に合わせた「ラウンドアップハイロード」の効果的な処理時期、処理薬量を検討していく必要がある。

**【全農 営農総合対策部 農薬研究室・青山良一】**

## 「ラウンドアップハイロード」のマルバツユクサに対する防除効果(圃場)

薬剤名	薬量 (ml/10a)	散布水量 (ℓ/10a)	地上部生体重量		地上花数		地中花数	
			(g/株)	無処理 区比(%)	(個/株)	無処理 区比(%)	(個/株)	無処理 区比(%)
ラウンドアップ ハイロード	500	50	42.1	1.4	2.2	0.2	0.3	1.5
	1000	50	0.0	0.0	1.7	0.1	0.0	0.0
無処理			3085.2	100	1392.2	100	21.8	100

薬剤処理日: 2002年7月19日

薬剤処理時の生育状況: 草高20~30cm・茎長30~45cm・開花始期、3株/m<sup>2</sup>区、2連刺

調査方法: 地上部生体重量は処理28日後に、地中花数は処理31日後に調査した。

地上花数は処理後7日ごとにカウントし、28日後までの累計を示した。

## もくじ

農機技術セミナー「金時にんじん」引抜き機の開発 ..... 2  
 こちら営農・技術センター/特長あるにんじんを探す(生産システム研究室)... 5  
 施肥技術セミナー/トンネル春どりにんじんのマルチ内施肥法 ..... 6

## 現地レポート/丸朝園芸農協(千葉県)発

機械化農作業の先端に行く にんじんの大産地を訪ねて ... 9  
 施設技術セミナー/光センサーの基準となる化学分析法 ..... 10  
 こちら営農・技術センター/果樹園で問題となっている雑草マルバツユクサ  
 (農薬研究室) ..... 12